

JPSA会長辞任にあたって

2021年11月24日 鳥原光憲

私は、11月30日付でJPSA会長を退任することになりました。以前から、今年6月の任期終了時の退任を予定していましたが、東京2020大会が1年延期となったため、大会終了後に先送りし、一段落したこの時期での退任となりました。

2011年6月にJPSAの会長を受け継いでから、10年と5か月という長きにわたり、大変有意義なパラスポーツ振興の活動に携わることができ、ご支援いただいた多くの皆さまに、先ずは心から感謝の意を表します。

この10年で、日本のパラスポーツに大きな進展がありました。それは、2013年3月に当協会が共生社会を目指す「長期ビジョン」を掲げ、2020年と2030年の目標に向けたアクションプランを立て、皆で力を合わせ取り組んできたこと、そして、2013年9月に東京2020大会開催が決定したことによるものです。

大きな進展として、①学校・企業・地域社会を中心にパラスポーツに対する理解が広がり沢山のファンが生まれ、②パートナー企業の支援拡大やパラアスリートの雇用が進み、③スポーツ庁の発足とともに国のパラスポーツ支援が一層強化され、④JSC・JOC・JSPOとの連携により競技力向上や次世代アスリートの育成がはかられ、⑤指導者の増加や施設のバリアフリー化などパラスポーツの普及環境の整備も進んでいることなどが挙げられます。こうしたことが、東京2020パラリンピックでの選手たちの大活躍に繋がり、多くの国民に感動と多様性を尊重する共生社会への気づきをもたらし、大会の貴重なレガシーを産みました。

この10年、私自身も、パラスポーツを支える様々な立場の人たちの熱意と努力や、パラアスリートたちの不屈の精神に勇気づけられ、パラスポーツの魅力や価値を知り、何にも増して自分の人生を充実させることができました。

今後の最重要課題は、障がいのある人の誰もが身近な地域で日常的にスポーツを楽しめる環境づくりです。厳しい情勢が予想されますが、森新会長の優れたリーダーシップの下で「JPSA2030年ビジョン」の諸施策が着実に遂行され、更なるパラスポーツの発展がはかれることを期待して、陰ながら応援を続けたいと思います。

素晴らしい経験をさせていただき本当に有り難うございました。